

来週の「売り物記事」はこれ



2017年6月30日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

ウクライナのバレエ名門校の改革に挑む寺田宜弘さん

7月2日(日)



ストーリー

バレエ界に多くのスターを輩出してきたウクライナの首都キエフ郊外にある「キエフ国立バレエ学校」。十代の子供を、8年の歳月をかけて一人前のプロダンサーに育て上げていますが、その現場をとりしきる「芸術監督」を務めているのはウクライナ人でもロシア人でもなく、日本人です。京都出身の寺田宜弘(のぶひろ)さん(41)。5年前、当時荒廃していたキエフ国立バレエ学校の芸術監督を託され、着実に立て直しを進めています。バレエの本場の地で、なぜ日本人の彼が成果を上げているのでしょうか。外信部の大前仁記者がその謎に迫ります。



京都出身の寺田宜弘(のぶひろ)さん(41)。5年前、当時荒廃していたキエフ国立バレエ学校の芸術監督を託され、着実に立て直しを進めています。バレエの本場の地で、なぜ日本人の彼が成果を上げているのでしょうか。外信部の大前仁記者がその謎に迫ります。

都民ファースト候補の「日記」公開

決戦・東京都議選の舞台ウラ

夕刊特集ワイド 7月3日(月)



東京都議会議員選挙といえば、首都の一大決戦だけあって国政にも多大な影響を与えてきました。とくに今回は、加計学園問題に加え閣僚の失言や週刊誌スキャンダルなどもあって安倍政権への「大逆風」のまっただ中。小池百合子知事率いる「都民ファーストの会」と自民党の勝負の行方やいかに。その舞台裏とは――。候補者の一人で小池氏の元秘書、荒木千陽(ちはる)さんに「都議選日記」を公開してもらいました。

親ありて 歌手A Iの母バーバラ植村さん

くらしナビA面 7月5日(水)

パワフルな歌声とが人気の歌手A Iさん。母のバーバラ植村さんは日本人とイタリア人のハーフで、振付師など多方面で活躍しています。A Iさんを米国で産み、幼い娘を連れて、夫の地元の鹿児島に移住。まだ日本語は不自由で「ガイジン」と呼ばれて、母子で泣いたことも。しかし、持ち前の明るさで「何があっても笑顔で楽しむ」子育てを心掛けました。



卒母のススメ



おんなのしんぶん 7月3日(月)



西原理恵子さんが母を卒業する「卒母」は多くの反響を呼びました。読者投稿に、西原さんがイラストを画く新企画「卒母のススメ」が3カ月限定で始まります。大学生の息子が1人暮らしを始めるとき、涙が止まらなかった別れの気持ち、重度の障害をもった息子の育児が介護に変わっただけで「卒母」ならぬ「卒子育て」など、それぞれの思いが寄せられました。

注目の「町村総会」

模索される「民主主義のかたち」

オピニオン面 [論点] 7月7日(金)



地方自治体の議会ではなく、住民が予算などの議案を審議する直接民主制の「町村総会」。人口減少などで議員のなり手がなく、議会の維持に苦悩する高知県大川村が6月に導入の調査・研究を表明して脚光を浴びています。総務省も近く有識者会議を設置して検討を開始する方針です。間接民主制(代議制)への風あたりが強まる中、総会は議会の代わりになるのでしょうか。「民主主義のかたち」が模索されています。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

高校野球の底流を掘り下げる

新企画「高校野球 新世紀」

スポーツ面 7月5日(水) スタート

来年には春のセンバツが90回、夏の全国選手権が100回の節目を迎える高校野球。その底流を掘り下げる年間企画「高校野球 新世紀」が始まります。

少子化や都市への人口集中、格差、貧困など日本社会が抱える課題がどんな形で高校野球にも表れ、それをどう克服しようとしているのか。夏の地方大会が始まる中、全国各地の実情をレポートします。第1部は中学生の野球人口が減っていく中、裾野を広げようと活動する団体や地域の取り組みを紹介します。



「変革」第4部セブン&アイ・ホールディングス

2面 週内スタート



時代の波にもまれる日本企業の姿を描く連載企画「変革」の第4部がスタートします。今回は総合小売りグループのセブン&アイ・ホールディングス。国内最大のコンビニエンスストア、セブン-イレブンの強さやライバルとの激しい競争、20年以上にわたりトップを務めた鈴木敏文会長が昨年5月に退任した後の社内の変化などに20回にわたり迫ります。